

徳島新聞

発行所 徳島市中徳島町2丁目5番地2 (〒770-8572)
徳島新聞社
電話(088)655-7373
郵便振替口座01690-5-2221
C 徳島新聞社 2009

1月3日
土曜日

賀川豊彦 今こそ再評価

献身100年

自伝的小説復刻へ

関連団体 多彩な顕彰事業

徳島県で幼少時代を過ごし、近代日本に大きな足跡を残した社会運動家・賀川豊彦(一八八八―一九六〇年)。二〇〇九年は、貧困者を救うため賀川が神戸のスラム街に移住してから百年を迎え、全国の賀川関連団体が「献身百年記念」として多彩な顕彰事業を予定している。さらに、節目の年の目玉企画として、賀川が大正期に出した自伝的小説「死線を越えて」が今春、復刻出版されることも決まった。「格差社会」の現代にあつて、貧困の解消や弱者救済に生涯をささげた賀川の功績を再評価する契機となりそうだ。



賀川豊彦

神戸市で生まれた賀川は、四歳から旧制徳島中



神戸のスラム街で写真に収まる賀川豊彦と近所の子どもたち(1910年ごろ撮影(賀川豊彦写真集から))

学校卒業まで徳島で過ごし、活動の基盤を築いた。神戸・新川のスラム街に入ったのは一九〇九(明治四十二年)十二月。以来、十三年余りにわたり救済事業を展開し、献身的な活動を続けた。

「死線を越えて」救貧・防貧の姿描く

「死線を越えて」は賀川豊彦の前半生を投影した小説。主人公が死の危機を乗り越え、救貧・防貧活動に打ち込む姿が描かれている。一九二〇年に改造社から出版され、大正期最大のベストセラーに。徳島県内の地名も数多く登場する。

賀川豊彦記念・松沢資料館(東京)の杉浦秀典学芸員らが約二年前から出版を持ちかけ、P.H.P.研究所が出版を決めた。四月ごろに初版五千部を

ハードカバーの上製本で出版する。価格は千五百円前後の見通し。近年まで社会思想社の文庫本があったが、同社が二〇〇二年に事業を停止し、絶版となった。〇三年、NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会が、鳴門ライオンスクラブの協力で復刻改訂版(〇八年に第二版)を発行。しかし、一般の書店には流通していないため、出版を望む声があった。出版に当たっては、鳴門友愛会などの復刻改訂版を活用する方向で調整が進んでおり、友愛会側も全面協力する意向だ。

主な献身100年記念事業

【県内】

- ◆ウオーキング大会 4月4日、鳴門市賀川豊彦記念館前集合。「子どもたちのために歩こう～私たちの一食分を世界の子どもたちへ」と題して開催。板東谷川一帯を歩き、参加料をすべてユニセフに寄付する。
- ◆テーマソング募集 ウオーキング大会のテーマソングを作る予定で、歌詞を鳴門市内の小学校5、6年生と中学生から募る。締め切りは1月31日。
- ◆特別企画展 3月20日～4月10日、「賀川豊彦と子どもの権利・ユニセフ活動とDVD映写」と題した特別企画展を鳴門市賀川豊彦記念館で開く▼11～12月に県立文学書道館で、賀川の文献や活動ぶりを紹介する企画展を開く予定。期間中、宗教学者山折哲雄さんの講演会も計画。

【県外】

- ◆オープニング式典 2月28日、青山学院本部。
- ◆第1回100年シンポジウム 3月7～9日、神戸市の神戸大学百年記念館六甲ホールと神戸国際会議場。
- ◆講演会・シンポジウム 4月29日、明治学院大学。最上敏樹・国際基督教大学教授の基調講演や野尻武敏・神戸大名誉教授らのシンポジウム。
- ◆献身100年記念式典 12月22日、神戸市・ポートピアホテル。賀川の主治医だった日野原重明・聖路加国際病院理事長の基調講演など。
- ◆映画「死線を越えて」特別編集 賀川の半生を描いた映画を60分版に編集し、各地で上映。
- ◆ミュージアムネットワーク事業 鳴門市賀川豊彦記念館、賀川豊彦記念・松沢資料館(東京都世田谷区)、本所賀川記念館(東京都墨田区)、コープこうべ協同学苑史料館(兵庫県三木市)、イエス団賀川記念館(神戸市)などの賀川関連施設をネットワークで結び、所蔵資料のデータベース化を図る。

《賀川豊彦》1888(明治21)年、神戸市生まれ。4歳で両親をなくし、93年、板野郡(現鳴門市大麻町)の賀川本家に引き取られる。旧制徳島中時代にキリスト教宣教師の影響で洗礼を受けた。卒業後は明治学院神学予科や神戸神学校で学び、1909年から神戸・新川のスラム街で各種救済事業に携わる。米国プリンストン神学校への留学を経て、労働運動、農民運動、普通選挙運動、生活協同組合運動などの先頭に立った。平和運動など国際的な活動の評価も高く、55年と59年にはノーベル平和賞候補に推薦された。60年、東京都の自宅で死去。